

莽才又適衡

Spreads lightly and brightly : ISUN



20230929 VOL15 AREN_KU

幸亦 又 遍 信

Spreads lightly and brightly : ISun

私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

fall

今回の表紙について:稲穂🌾



最近の発見は…最近の発見はこんなにしんどいのに外からは、
リラックスして見えてるの？ あら♡

第15回 「See you Ma~gain!」

トソスンヤン ありがとうございます。

本誌で連載を続けてきた「マ〜劇場」ですが、実は前回で終わっています。

予告なしに勝手にマ〜たちは去っていきました。

ということはありませんが、近々別の形でマ〜たちが皆様の前に登場します。
ぜひお楽しみに。

コトハでは、「マ」は、真実、開く、明らかにする、という知識を現すオンです。

光の生命体であるマ〜たちは、いつも心を開き、自身の内側にある喜びという真実を現しています。

マ〜には「嬉しい」と、「とても嬉しい」の2つの感情しかありません。
マ〜たちは、いつも無邪気に、自身の喜びを「マ〜、マ〜」言いながら、それを現し、明らかにしています。

マ〜たちは、この地球上の至る所にいます。
誰の心の中にも、そして外の世界にもです。

小さな子供はマ〜がいることを知っています。
彼らはいつも笑っています。

小さな子供は1日に300回くらい笑います。
いつもマ〜たちと一緒にいるからです。

しかし、大人になるとマ〜を忘れ、そして笑いも忘れます。
だから、大人は1日に数回しか笑いません。

ぜひ、自身の心を開き、真実を現し、明らかにしてください。

何かを心配し、何かに悩んでいたたり、何かにこだわり、何かにもがいている暇があったら、マ〜と言ってみてください。

そうそう、皆さんはマ〜たちの「マ〜」の声を聞いたことがありますか？
いつか聴けるといいですね。

けっこう、面白い声をしています。

トソスンヤン ありがとうございます



第15回 農法部門の活動について

トソスキツマ ありがとうございます

今回は、農法部門についてお伝えいたします。



農法部門は、“人々の内側を純粹さで満たし、欣びを生きる世界の実現”という達成を受け取るため、日々活動しております。

こちらの写真は、今治市野間地区にある畑の写真です。

ルートラーナ創造活動メンバーが、自分たちで創った、純粹な米や野菜を恒久的に食していくには、到底足りない小さな畑ですが、稲や野菜だけでなく、多様性溢れる植物や、鳥や虫などをたくさん観ることが出来ます。

またルートラーナ創造活動メンバーのご自宅で、バケツで稲を育てて、稲が育っていくことの欣びを感じ、稲との贈り合いをしています。

KIR農法部門のメンバーだけではなく、ルートラーナ活動に携わるみんなで、小さな達成を日々繰り返し、大きな達成を受け取るために活動しています。

今治で、純粹な稲と野菜を育てることが出来る、田んぼと畑を探しております。

ご紹介いただける方がいらっしゃいましたら、ぜひKIRまでご連絡くださいませ。

一般社団法人コトハ・インテグラルリサーチ (KIR)事務局
info@kotoha.or.jp / Tel:0898-39-6817

トソスキツマ ありがとうございます。



最近の発見は…大三島には、猫が少ない、、、😞

第15回 農地から多様化の世界を知る

トソスツケオ ありがとうございます。

最近、今治農地ではオクラを日々収穫しています。

オクラの周りには、昨年シソが生えていた種が落ちて、シソがたくさん生えていました。

オクラの隠れてしまうほどシソが成長したので、シソの根ごと採ることを行いました。

そうすると、今度はオクラの葉っぱが毛虫に食われてしまうようになりました。

今まで毛虫はシソの葉を食べていたのか、もしくはシソの香りが毛虫を寄せ付けないようにしていることに気づきました。

農地においても、部分だけを見て判断するのではなく、全体をみて1=3の全体性から行動することが大切なことに改めて気づきます。

農地には多様化の世界があります。

蚊も毛虫もいれば、ミミズもいれば、モグラもいて、そして多種多様な植物がいます。

どの生物や植物がなくなっても農地の全体性のバランスが崩れて、自然ではなく不自然な形となって目の前に現れます。

自然とは、「自ずから然る」と書きます。

あるがままに・ありのままに在るならば、ひとりでのしかるべき状態になってゆく。

つまりそれは、1=3の全体性が確立している状態だと思います。

人間の都合で、部分だけみて判断して何かをすることで、1=3の全体性が崩れてしまいます。

Youtubeで知った話ですが、一頭の牛の重さを数十人という皆で相談しながら検討すると、一人で検討するよりも近似値になることが、数学的に証明できるようです。

コトハの知識で考えると、みんなの多様な光の質が集まることにより絶対の立場からの創造が出来るので、牛の重さを正確に知ることが出来るのだと思います。

農地では、多種多様な植物や生物が集まり1つとなって農地という1=3の全体性を創造しています。

階層を上げて考えると、農地や住宅や川や海などが集まり地球となり、そして色々な星が集まり宇宙となっています。

この世界を1=3の全体性の視点から考えると、どんな人でも、どんな植物でも、どんな生物でも、誰一人かけてはいけないものだと感じます。

光も闇も全ては普遍意識の現れであり、自然という宇宙法則の現れ、理知の現れであり、完璧なバランスで存在していると思うからです。

トソスツケオ ありがとうございます。



最近の発見は…普遍意識(1)は、全てを含んでいる多様化(3)であり、この普遍意識がひとつ。と言うことかな？と感じました。ひとつとは、みんなが同じになることではないと気づきました。

第15回 大三島の多様な祭り

トソスワナム
ありがとうございます。

大三島も爽やかな風が吹き抜け過ごしやすくなってきました。
休みともなると観光客やサイクリストが多く集まってきています。

大三島は大山祇神社を中心とし、そのまわりを取り巻くように13の集落が点在しています。かつて自動車が普及する前は、島の交通は船が主流であったので、隣村との交流よりも対岸の島との交流が盛んであったそうです。そのための集落の独立性が保たれ、神楽、獅子舞、だんじり、弓祈禱など様々な個性豊かな祭文化が育まれた。これは昔から大三島が文化の合流地点や境目であったことがわかります。

そして、大三島も海に囲まれていますので、海にまつわる祭りもあるようです。島の西南に位置する宗方地区では、夏の盛りの時期に、伝馬船競漕「神事 櫂伝馬」が行われています。

櫂伝馬は巖島神社の十七夜祭として旧暦6月17日に行われ、地区が三つに分かれ、赤、青、桃色の衣装を着た18人の男たちが伝馬船を漕いで速さや雄姿を競い合う。船はぶつかり合いながら海を往復する。その由来は水軍発祥、海の安全祈願、宮島管絃祭など諸説ある。

一つの島で多様な祭りが行われることはなかなかないと思います。
機会があれば様々な祭りを見にいければと思います。

トソスワナム
ありがとうございます。



第15回 K-PVTコーディネーター

トソスヤリノ
ありがとうございます。

9月24日にK-PVTコーディネーター育成講座の第3回の講義が終わりました。また新しくK-PVTコーディネーターが生まれました。

ヤリノは1クール目のK-PVTコーディネーター育成講座に出てK-PVTコーディネーターになりました。それ以降、コーディネーターとして活動させていただきながら、様々な反応に気づき、くるしみを感じ、手放し、を繰り返しているつもりです。

今コーディネーター間で進めているプロジェクトに、コトハの知識に基づく日課を絵本にする、というものがあります。

ヤリノは過去に絵を描くことや本を作ることをしてきたことがあるので、どうしてもそこにこだわりが生まれやすいのです。その度にその反応に向き合います。一緒に進めているメンバーを信頼します。同じ考えじゃなくても、常に達成を観ようとし、知識に基づいて行動します。

ヤリノはバンド活動をしていたことがありましたが、その時には「どうしてわからないんだ！」と怒ったり、何とかしようとしたりしてきました。

コーディネーターとしての活動は、自身の繰り返してきた不純なカルマを手放し、光を生きるための大切な場です。このような場をこれからさらに多くのコーディネーターの方々と共にできることに欣びを感じています。

トソスヤリノ
ありがとうございます。



第15回 私達の外側にあるものと内側にあるもの

トソスワトホ
ありがとうございます。

私たちは自身の外側にあるものを認識している、という経験をしています。
その認識は、私たちの内側にあるものによって生じています。
そうしたところによる認識は、こころの純粋性が高まることによって、より精妙になります。

通常私たちが五感を通して「認識している」と感じているこの世界は、実はこころを通して内側から外側に創造されている様を自己が観察しているもの、です。

トソスワトホ
ありがとうございます。



第15回 手作りのもの

トソスナエン
ありがとうございます

お店で売っているものより手作りのものもいい、
どうしてそう思うようになったんだろう。

手間暇を「惜しむ」ナエンにとって、手作りのものは面倒なもの、でした。

祖母や母の手作りのものに慣れてきたから、ないものねだりで売り物に憧れていたところもありますが、身に着けるものも、口に入れるものも厳選された、ある意味贅沢なものが身近にあったのだと気づくことになります。

(それが今となっては、欲しくても手に入らないないものねだりになったりするのですが)

食材にしても、原始的なものや方法でつくられているものが、強かったりします。

デドコロがわかっている安心と、不要なものを入れていない確かさと、環境にとってどう影響があるか、ということにも思いを馳せると、これまでの自身の基準が揺らいで、あっさり乗り換えたり、取り入れたり出来たりします。

キオマ食堂で食事をつくったり、味噌をつくったり、甘酒をつくったり、梅干しをつくったりしてきて、ひとの営みのベースとなるからだをつくるものづくりに関わらせてもらっていることに、畏れと戸惑いを感じながらも、それ以上の誇りとよろこびがあることに気づいてから、ある時『キオマの食事の次元が上がったような気がする』と言われたことが、大きな励みになりました。

現在のキオマ食堂で誰がつくっても光のごはんになる魔法を、今後のキオマ食堂は、魔法ではなく創造の賜物であると言い切れる揺るぎなさを身に付けていく新たなステージにしていきます。

トソスナエン
ありがとうございます



第15回 その15

トソステケエ
ありがとうございます。

いつからお菓子を作るようになったのか、時々尋ねられることがあります。
物心ついた頃から、カバーもなく表紙が朽ちかけている、ファンタジーな写真で構成されたお菓子の本を、母から借りてうっとり眺めていた記憶はあるのですが、自分で作ってみようと思ったことはなく、そもそも自分には作れないものだと思っていました。

いつぞやのキオマ通信でご紹介したケーキを作ってみたエピソードがきっかけで、食べたことない味、もしくはおばあちゃんみたいな味とよく言われる菓子を作るようになった延長線上に今があり、毎度手探りでお作りした菓子を召し上がっていただいております。

すいか祭りの終盤に某店で購入したひと玉は、店主の方の念押し通り熟れまくりだったので、急きょシロップにし、炭酸割りでお出ししていました。ある日、それを寒天でとじ、ふと閃いてそれを底が抜ける型に流し込み、あんこを寒天でとじて上から流し込み、という菓子を作ってみたのですが、赤と黒。見た目がなんか怖い。どうしよう。しかし自身の中には、これを丸くくり抜きお皿に盛っている、映像にもならん何かがあるとわかる。でもどうすればお出しできるのかわからない。

メニューbookに「あんこ・すいか・ちけーき」と項目だけ書き、何じゃそりゃと思いつつ、相方のナエンさんに「これ、丸くくり抜きたい…」と弱々しくお伝えしてみたところ、これで抜いてみる？これは？と、ココット型や、だ円っぽい形の計量スプーンなど、次々提案してくださり、その時何かが開き、軽くなった感覚がありました。

その日、菓子を召し上がってくださったんやん先生からは、「何食ったかよくわかんなくてよかった（合格）」とコメントをいただきましたとさ。

トソスすいかチケエ
ありがとうございます。



最近の発見は…キオマ通信13号のマ〜星人の原画を眺めていて、
猫（わしにはおばさんに見える）もちゃんとジェットコースターに乗ってるやん、よく出来てるなあ。

コトハを学び、ミコトを生きる

ワラン

第13回 朝の目覚め

トソスワラン
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ワランです。
今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第13回です。

私たちは、コトハを学び、それを実践し、進化・成長していく過程で、様々な体験や変化を経験します。朝の目覚めもその1つだと思います。これは、朝の起床が本当の目覚めになっていく体験です。

一般に、多くの人は、仕事や家事などの理由で、朝は〇時に起きなければならないと思い、その時間どおりに起きるために目覚まし時計をセットするなどして、頑張っている。

しかし、K-PVTの実習や純粋な食事、規則的な生活を続けることによって自分の内側が整ってくると、だんだん自然に、同じ時間に目が覚めるようになってきます。目覚まし時計がなくてもちゃんと目が覚めるようになり、スッキリ、気持ち良く起きられるようになっていきます。

さらに心や体が浄化されてくると、朝の目覚めとともに、内側から純粋な思いが湧いてきたり、気づきがやってくるようになります。それは、何か教えを受けているような感覚であったり、精妙なインスピレーションであったりします。

そして、さらに進むと、目覚めとともに達成を観ることができるようになります。1日の達成を、目覚めとともに受け取るということです。

このように朝の目覚めにも段階があります。それは、コトハの知識である、ハクメ、メハク、クメハの段階にも似ており、とても興味深いです。

トソスワラン
ありがとうございます



最近の発見は…意外と見られてるんだなあ

第15回 さよならまたね

トソスキリヲ ありがとうございます

皆さまこんにちは、いかがお過ごしですか？

ここ最近、近所の川の透明度が増していて、水面にきれいな網の目模様が浮かんでいるのをよく見かけます。

川の上を飛び交うトンボも、透明な水の中で泳ぐ亀や魚たちも、とても気持ちがよさそう。いつもゴミの浮かぶエリアでじーっとしていた2羽の鶉(う)たちも、最近はきれいな川まで足を伸ばして、翼を水に打ち付けながら、ばしゃばしゃと遊ぶように低空飛行をしています。

そんな川辺の生き物たちを眺めながら、「マ〜も一緒になって遊んでいそう！」とあれこれ想像しながら、自転車を走らせている毎日です。

マ〜たちは、前号でキオマ通信から旅立っていきましたが、マ〜たちは、ンヤン先生のおっしゃるように、この地球上の至る所にいるのでしょうか。私たちの心の中に、そして外の世界にも。

現在は、マ〜を別の形で皆さまの前に登場させるためのお手伝いをしています。

それは、皆さまの元にマ〜の愛♡をお届けするためのお手伝いであると同時に、キリヲが内側のマ〜に開かれるためのギフトでもあり、どちらも早く実現するよう、無邪気に創造してまいります。

皆さま、どうぞお楽しみになさってください。

ちなみにマ〜劇場（そんな名前が付いていたとは！）で展開された名作原画のマ〜たちは、キオマ食堂でとても嬉しそうに笑っています。

機会があれば原画を眺め、ぜひご自身の内側にいるマ〜たちを感じてみてください。

（いつかルートラーナ広場を作って、大きな壁画マ〜たちをこの世に現してみたいなあ…）

それでは、次回は約2週間後のアレンのメ、新月の日にお目にかかれますよう。

本号もお読みくださり、まことにありがとうございます。

2023年9月29日、気がつけばマ〜マ〜言ってるアレンのク、満月の日に。

トソスキリヲ ありがとうございます

またね、マ〜♡



最近の発見は…バツタには脚力で飛ぶのと、羽で飛ぶのがいる
畑をいっぽ歩くたびに、両方のタイプが一斉に飛び交うのが爽快



KoToHa *Integral Research*